エコニュース さって

第 55 号
平成 26 年 6 月 19 日
さって市民環境ネット
TEL 48-0331

エコライフＤＡＹ2014（夏）宣言式

報告：中山

恒例の「エコライフＤＡＹ2014（夏）」宣言式は、5 月 12 日ａｍ9：00～、市長応接室で市長を囲み、「幸手エコライフＤＡＹ実行委員会」のメンバーそして“さっちゃん”も参加し行われました。

“エコライフＤＡＹ”運動は、環境の重要施策の一つで県内全市町村が参加し毎年行われている啓発運動です。しかし最近は運動のマンネリ化が指摘され、幸手市においてもエコライフＤＡＹ・チェックシートの回収が頭打ちの状況です。2011.3.11、東日本大震災が発生した夏は、大規模な計画停電が行われ市民の省エネルギー意識も高まり、本運動への参加者数は 7,725 人（対人口比 14.4%）もの多数となりましたが、その後は 7,100 人、6,500 人と減少の状況です。

一方テレビ、新聞等では、ＩＰＣＣ（国連気候変動に関する政府間パネル）発表に基づく「地球温暖化の加速」が盛んに報道され、市民一人一人がエコライフに取組む姿勢を一段と求められる事態となっていますので、市長へは機会を捉え「エコライフの勧め」を推進するようお願いし、宣言式は散会となりました

市長とエコライフＤＡＹ２０１４宣言式

今年も 5 月 22 日、幸手小教員室北側にゴーヤカーテン苗植えを行いました。網ネットを 3m の支柱 8 本で校舎の壁に固定し、先生や私達の指導で児童達 5 名が 20 数本の苗を植えました。また、南公民館は 5 月 31 日、1.6m（幅）×3.6 m（長さ）の網 5 張りをアルミ番線で壁に固定し、プランターにゴーヤ苗を植えました。緑のカーテンは猛暑の夏に一服の清涼感を醸し出すだけでなく、育成なったゴーヤの実は先生や市民の皆さんに好評を得ており、今年は順調に育つことを祈っています。

幸手小児童たちとのゴーヤ苗植え式

南公民館：今年も沢山の苗を植えたぞ！

昨年行った簡単な実験結果によると、「緑のカーテン」は気温を 1.2～1.5℃程度下げるとなっており、大変な苦労である毎日の水遣りを子供たちや公民館管理人にもお願いしながら、会員が交代で行ってこの効果を楽しみたいと思っています。

幸手小学校環境講座（きらきらタイム）　報告：宮田

日　　時：平成26年5月21日(水)　10：30～12：10
ゲストティーチャー：石井、藤城、澤村、本田、久保田、高久、中山、八木、唐澤、宮田
テーマ：『身近な環境の生き物を調べよう！』“田んぼの妖精に会いましょう”

水田には田んぼの妖精と呼ばれる『ホウネンエビ』と言う小さな生きものが生まれています。皆さんのまわりには、普段気にも留めないたくさんの生き物や草花などがあります。そんな身近な自然について私達ゲストティーチャーと幸手小学校（高野校長）の4年生38名の児童の皆さんとで調べ学習観察を行いました。

実際に観察する前にゲストティーチャーの石井さんから、田んぼに生きるホウネンエビの名前や特徴を知ることの説明を受け、いよいよ学習観察です。

ホウネンエビの観察を行うオープンスペースでは、水田がどの様な状態になると、ホウネンエビが発生するのかを知り、グループ別にミルソー（薄い観察用水槽）とルーペで実際の姿を観察、ゲストティーチャーからホウネンエビの泳ぎ方や足の数、オス・メスの特徴や見分け方などの指導を受けました。オスとメスの数を数えたり、何処の田んぼに居るのかと質問もありました。双眼実体顕微鏡を使いメスの卵を観察すると「中の卵も動いてる～」と驚きの喚声が響きました。手のひらに乗せて直接触れてみてホウネンエビの不思議な感触に驚いていた様子でした。少し小さいホウネンエビでしたが、違いを探そうとより一層真剣に見つめていた瞳が印象的でした。

草花を調べる視聴覚室では、ヘビイチゴ、ドクダミの花、タンポポの綿毛を双眼実体顕微鏡で観察すると「ヘビイチゴは赤くてつやつやしているのは何故？」「ドクダミは初めて見た、臭いけどとてもきれい」「タンポポの綿毛はとても不思議な世界」と感動していました。また、ニホンタンポポとセイヨウタンポポの見分け方を知り「良かった」「今度は自分で探してみる」との感想もありました。その他（イチゴ、オオバコの花、シロツメクサ、カラスノエンドウ、スズメノエンドウ）を観察。動物と違い植物は足がなくても、遠くまで広がる話には真剣に耳を傾けていました。身近な植物もルーペや双眼実体顕微鏡で見ることにより、興味を持つと同時に植物も大切にしたいと言う気持ちが伝わってきました。児童たちの観察ノートにはホウネンエビや植物のスケッチが上手に描かれていました。

学習のまとめとして「生態系のピラミット」の図を使いゲストティーチャーの藤城さんが生き物の仕組みについて説明しました、最初「生態系って何？」と解らなかった児童も土の中の生き物から木の上の大きな鳥のところまでの縮図には目を丸くして聞いていました。

生きている物は皆、必要とされていることを学んでくれたのではないかと思いました。
「賢いカラス」の動画には、カラスの頭の良さに感心した、との感想が多くありました。

「ホウネンエビの一生」のビデオが始まると賑やかだった児童もビデオの音声を遮ることもなく、静かに神秘的な妖精の誕生に見入っている様子でした。

児童からは、「ホウネンエビがお腹を上にして泳ぐことを初めて知った。」「足が11本もあること、初めて見た小さな妖精が広くて大きな田んぼで泳ぐ姿にびっくりした。」「おどろいた。」「タンポポの綿毛をよく見ることが出来て良かった。」「ドクダミは意外と根っこが長かった。」「シロツメクサはいつも見ているのに、ルーペで見たら知らなかったことがいろいろ解った。」「エビの卵を見せてくれてありがとう。」などの素直な感想の発表を聞き、幸手の自然に対し興味を持ってくれて一つでも覚えよう、学習しようとの意欲を強く感じ、ボランテア活動の効果を意識しました。

オスは頭が象の鼻のように、メスはお腹に赤い卵が！

ドクダミノの花、ヘビイチゴの実、タンポポの綿毛の実体顕微鏡で観ると！

第8回ホウネンエビ（田んぼの妖精）観察会結果

報告:澤村

平成２６年５月１７日（土)、今年も幸手市千塚地区（西公民館裏）において、13 名（一般５名、スタッフ８名）の参加で開催されました。今年は、寒暖の差が激しく、ヒョウが降り、時折り北西の風が吹くなどがあって水温も低く田植えが少々遅れてホウネンエビの発生が遅れ、発生数も少ないスタッフ泣かせの年でした。

５月３日（土）の１回目の下見では発生が無く、１０日（土）で２回目の下見で漸く１箇所に発生が見られ、しかもその場所には当日（１７日）の前の日（１６日）にいなくなり、昨年発生した場所でやっと少数が見つかった状況でした。

当日は、昨年と同じルートを回り、発生数が少なく 10 ㎜位の小さいホウネンエビを何匹か採取しました。スタッフから一般参加者に「半透明でうす緑状なのでじっくり見ないと見逃してしまう、生息位置は人の足跡のようなくぼんだところに多く見られ、そこには餌となるプランクトンが多く滞留していると思われます。また、まだ小さいので赤茶色の卵を持ったメスはいないため、オス、メスの見分け方は、メスは背中に 2 つの対になった白い斑点があると」とガイドしました。

一方で、今年はこれまで気がつかなかった、参加者全員がビックリする大発見がありました。今まで微小なミジンコと思っていた生き物の中に、チョコチョコと素早く動くものとピョンピョンと動作の違うものがいることが分かり、後者を採取してルーペで見たら、実はホウネンエビが卵から孵化（？）する状態と分かりました。そしてカメラで動画を撮ることに成功しました。

公民館に戻って、田んぼから採取してきたホウネンエビをスタッフの指導の下に一般参加者全員がオスは頭に触角がありメスと見分けられること、えら足が 11 本ずつ計 22 本あるなど、スタンドルーペ（3.5 倍）と双眼実体顕微鏡（20 倍）で観察しました。また、今回、大発見の卵から孵化（？）したホウネンエビの動画を回して確認し合いました。

参加者の感想には、「2 回目の参加ですが神秘的な生き物です」「初めての参加ですがかわいい」「2 回目の参加ですが、ずっと眺めていたい」「孵化（？）するところから成体になるまで見られて良かった」「今後は、成体が卵を産んで孵化するところが見られたらすばらしい」などがありました。

石井講師からの総評は、今回の観察会で大発見があり、観察会が一段とレベルアップして大変良かった。残された課題は、ホウネンエビが産んだ卵（赤茶色で約 0.2 ㎜）を土の中から見つけ、孵化することである、ということでした。

水を揺らさないようにソロっと採取！

最後にスタッフとして、今回は他のイベントと重なり参加者は少なかったですが、大発見もあり成功裏に開催できたことと、今後の開催についてよく検討・協議して決め、また何とか卵を見つけ孵化する課題を解決すべきことの責任を感じました。

第7回「中川探検ウォーク」（平成26年度第1回市民環境講座）　報告：久保田

ー上流に向かって初めてのコースを歩くー

4月20日（日）曇り、10:00東公民館集合、一般参加者19名、青柳外部講師1名、さちネット9名、環境課3名。

今回は探検ウォーク初めての試み、東公民館から中川の上流方向を歩きました。中川左岸『ふれあい散策路』を途中野鳥の観察をしながら宇和田公園の水門まで。そこで「中川の誕生」について久保田氏より説明。中川は大正7年からの工事「庄内古川改修工事」で、権現堂堤を宇和田公園東で切って、南側あった庄内古川跡を10kmほど掘り広げ、旧権現堂川を杉戸町椿の庄内古川につないでできたもの（付け替え）。その完成の碑が公園内に建てられていました。さらに上流、旧権現堂川を西に歩きました。そこは中川の川幅が広く、大きな中州もできていて鴨が何羽も羽を休めていました。

工業団地のいくつかの工場の裏手を歩き、中川を外れ宇和田公園の西端の入口から宇和田公園に入り、東に向かってに公園を縦断。歩きながら園内の樹木や野草について藤城氏が説明。「宇和田公園」は日比谷公園、明治神宮を設計した「日本の公園設計の父」と呼ばれる本多静六氏によって大正6年につくられました。植えられている古木の樹齢はほぼ90歳以上、堤の両側に大きく育ち涼しげな木陰を作っています。木々の間に見え隠れする野鳥も観察。中川を臨む公園の端で昼食。これも初めての試みで、参加者にはお弁当持参を伝えてありました。ベンチや草の上で思い思い弁当を楽しみ、食後に記念写真撮影。帰りは東公民館まで右岸を歩いていきました。

青柳先生と中川探検ウォーク隊（宇和田公園）

公民館で、野鳥のエキスパート青柳氏による目撃された（聴撃も？）野鳥観察のまとめ。30種類もカウントされましたが、そのうち参加者が「目視」できたのは、多分多い人で10種類ほどです。「そんなにもいたのか」と、参加者は驚いていました。野鳥の観察には、目で姿を追うだけでなく、鳴き声を聞き分ける耳も不可欠であることを今回も思い知らされました。

【会員募集中！】環境保全活動を一緒にやっていただく方を募集しております。
是非、貴方も参加しませんか。〔さって市民環境ネット〕
★問い合わせ・申し込み　★　澤村　邦夫(代表)まで　ＴＥＬ　0480-42-3384

幸手の環境活動グループ：幸手権現堂桜堤保存会、権現堂川地域環境保全協議会、幸手自然愛護会、幸手ひがし幼稚園、エコ・グリーン幸手、くらしの会、上高野婦人会、倉松探検隊、幸手中央ロータリークラブ、すこやか「食」の会、子育て支援ねっとわーく、いきがい・はなみずきの会(いきがい大学伊奈学園20期)